

UAEL

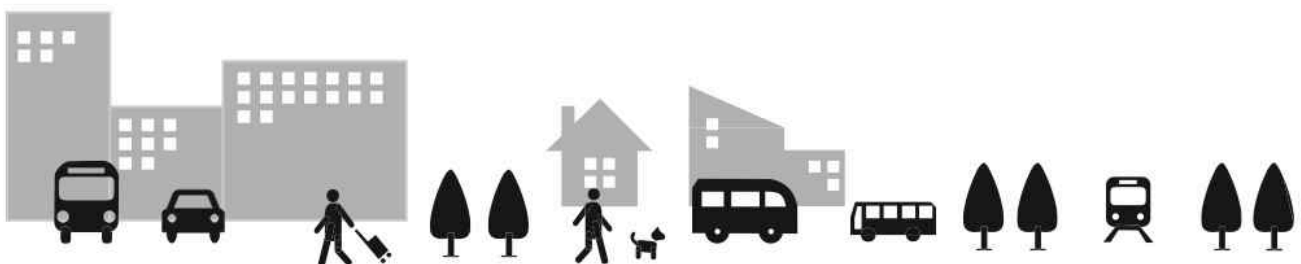
No.13
2015.5

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.

- 2. 巻頭言
- 3. 卒業展
- 4. 卒業論文紹介
- 6. 卒業設計紹介、学生自主研究、都市計画学会
- 7. 学科ニュース、卒業生コメント
- 8. OB・OGの今、information



「蔵の街とちぎ」菅谷美聖 撮影



秋田県立大学 建築環境システム学科 計画学講座 都市アムニティ研究室

巻頭言

ライフスタイルを変える

13歳の少年がTEDで行った講演の記録*を、友人に教えてもらった。その中で引用されていた、ロジャー・ウォルシュ医師の提案した「セラピー的ライフスタイルの変化（Therapeutic Lifestyle Changes：以下、TLC）」に感銘を受けた。

TLCは幸福と健康を得られるライフスタイルに必要な条件を示したものだ。内訳は、①運動、②食事と栄養、③自然と触れあう時間、④他者への貢献と奉仕、⑤良好な人間関係、⑥娯楽やレクリエーション、⑦リラクゼーションとストレス管理、そして⑧瞑想と⑨スピリチュアルなことへの関わり、となる。社会人も学生も、本業や勉学の傍ら、これら9種類の条件に対する心構えと行動を伴えば、幸福で健康な人生になっていくだろう。

これらの条件のうち、①以外は大学で教えていない。小中高でも教えていないだろう。栄養学科などの専門分野では教えていても、全分野で教えるようにはなっていない。そのため、家庭環境や自助努力の中で、②～⑨の行動を進めることになる。いわゆる成績不振学生は頭が悪いのではなくTLCが不十分なケースというのが私の経験での感触である。⑧や⑨は多くの人が行っていないと答えるかも知れない。そこは譲るとしても、②～⑦の条件は、大抵は無自覚に実行しているであろう。

大学ではどこまでやれるだろうか。せめて成績不振学生のケアでは、当人が②～⑦を行っていくのをサポートできるのだろうか。私見としては、担任やチューターなどの個人レベルでも、アドバイスしていくことは可能だと考えている。⑦は学生の程度次第ではスクールカウンセラーに頼んだ方が良さそう。

ただ、こういうことを議題にすること自体、そこまでしなくちゃいけないのかと多方面から反発を受けかねない。実際のところ、どうすると良いか、OB・OGの意見も聞いてみたいところだ。

* <http://logmi.jp/13080>



浅野 耕一（あさの こういち）
建築都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野

まちづくりの follow

●歩道の融雪化

大門・本町通りの拡幅整備と沿道景観形成の取組みは着々と進んでいる。先日の委員会では、懸案の歩道融雪化をどうするかについて最終判断が下された。

融雪化する場合、イニシャルコストは県負担だが、ランニングコストは地元負担が原則。延長374mで、年間195万円が必要となる。市から除雪費用分の支援を受けたとしても、125万円/年が地元負担となる中での判断だ。

●具体的な情報提供と意見集約

まちづくり委員会は、判断にさきだち地権者への説明とアンケートを実施した。沿道の敷地地権者に対し間口1mあたり150円/月と割り出し、具体的な負担額を提示して融雪化の是非を沿道地権者に問うたわけである。

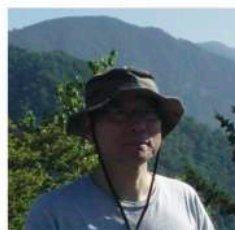
「賛成」、「委員会の判断に従う」等の回答が過半を占め、「高齢者のみの世帯で日常の除雪が大変で、お願いしたい。」との記述も見られた。しかし、数人の地権者から「そこまで負担はできない」等の回答があった。当面は建築の予定のない敷地所有者等からの反対の声であり、それはそれで尤もな意見である。結局、融雪化は見送りとなった。

●信頼性

まちづくり委員会は、3年前に地区計画とまちづくり協定を地元でまとめあげた。本年度は、道路整備に伴うポラード仕様、歩道の路面素材と色、植栽マスや街路灯の位置など、常に情報をオープンにし、地権者の意見集約を経て意思決定をしてきた。融雪化こそ決定できなかったものの、そのプロセスは誰もが納得のできるもので、委員会の信頼性は高まっている。

●石脇地区も動き出す

さて、N.L.12号に紹介した「石脇通りの再生」を卒業展でプレゼンしたところ、石脇地区のイベント開催時にもパネルを展示したいから貸してほしい旨の連絡があった。さらに医療系NPOからも、自分たちの取組みとコラボレーションしてはどうかとの提案があった。大門・本町通りのような組織ができ、それらが緩やかな連合体を形成すれば、本荘中心市街地の再生は、さらに加速するだろう。



山口 邦雄（やまぐち くにお）
建築都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野

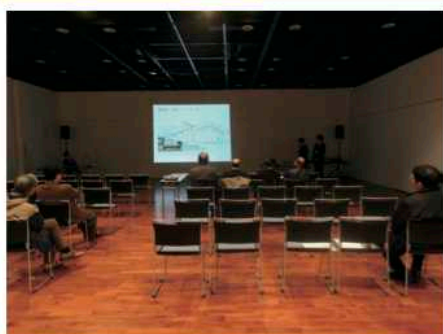
卒業 展 in カダーレ

2月13日と14日に由利本荘市のカダーレにて都市アメニティ研究室及び経営情報システム研究室、生産情報システム研究室の合同卒業展が開催されました。

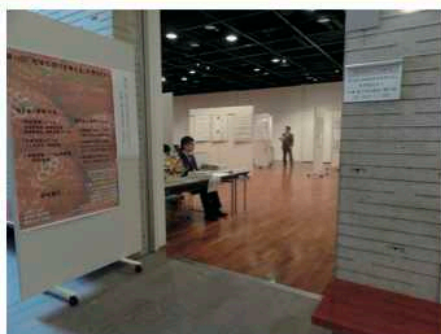
今回は、卒業研究の発表だけでなく、由利本荘市にある「石脇通り」についての展示と発表もあったため地元の方々にも多く来訪して頂き、白熱した質疑応答で大変貴重な時間を過ごす事ができました。

また、アンケートにもご協力頂き、今後も地域との交流も深めていきたいと感じました。

最後になりますが、ご協力して頂いた皆様、そして来訪して下さいました皆様、本当にありがとうございました。



石脇通りの街並み再生。地域の方々にも多くお越しいただき、質疑応答では白熱した意見交換が行われました。



今回で2回目となる、経営システム工学科との共同卒業展。他学科の研究内容を知ることができ、良い刺激になりました。



卒業論文発表。大学でどのような事を研究しているのか知ってもらい、良い機会になりました。

共同開催について

第10回「地域の明日を考える」大学セミナーを合同で開催することができました。今年は準備段階で早々に声をかけていただき、アンケートなど共通化できるものは共通化しました。こちらのスタッフが卒論と演習で動けない中で、準備を殆ど都市アメニティ工学研究室に頼ってしまいました。おかげで、経営の発表が卒業研究発表会の翌日という強行日程にも関わらず、立派な会が実施できました。都市アメニティ工学研究室の組織力に助けられました。大変お世話になりました。来年も同様なセミナーを開催したいと思いますが、広報戦略を考え、広く市民の皆様にお付き合いいただく企画に行ければと思います。来年もよろしくお願いいたします。



経営システム工学科
島崎 真仁 先生

夏期集中研究の出前発表会

本荘北中学校では、地域の歴史人として石川善兵衛さんについての勉強をしているとのことでしたが、石脇通りの歴史的町並みについて学習する機会はありませんでした。夏合宿当日に行ったアンケート調査の結果から、石脇通りでは住民の高齢化が進行していることが明らかになったため、今後町並みを守っていくであろう中学生の皆さんに、石脇通りの価値が伝わったのではないかと思います。



発表内容は、計画研の菅原さん(M1)が「石脇歴史資源マップ」を用いて、石脇通りにおける歴史的資源・自然資源等が豊富であることを説明し、手嶋くん(B4)、吉村くん(B4)

が「石脇歴史資源マップ」の作成について説明しました。これに加え、都市アメ研の島山(B4)が「石脇通りの町並み再生の提案」を発表しました。次に、計画研の齊藤さん(B4)が「田屋の内部・周辺の現況」について説明し、都市アメ研の佐々木(B4)が「田屋の利活用像」を発表しました。

卒業論文

今年度の卒業論文を紹介します。
卒業生からそれぞれの卒論についてコメントをいただきました。

佐々木 翼「戸建住宅の設計初期段階における仕様検討用 LCA ツールの
拡張性を考慮した実装に関する研究」

今までの自分になかった多くのことを学ぶことができ、自分に足りないことに気付く良い機会だったと思います。

畠山 大輝「角館伝統的建造物群保存地区の現代的問題・課題に関する研究
—他の武家町11地区との比較をして—」

昔から親しみのあった角館武家屋敷通りにおける、今後の町並み保存のための取り組みを考察できました。

守屋 子貢「こどものあそび環境と向社会的行動力の発達との関連性に対する調査研究
—秋田県横手市を事例として—」

こどもの生活の一部である「あそび」の環境において、今後は集って遊べる環境作りが必要だと考えます。

八柳 翔太「能代市鰯渕地区大規模商業施設の進出に伴う問題発生に関する研究
—プロセス, 説明責任, 影響予測, プランの観点から—」

3年次自主研の朝市とは対照的な大型S.C.の進出問題を分析しました。
都市計画は幅広い知識が要求されることを実感しました。

和賀 剛志「一関市街地における都市機能の集積動向に関する研究
—人口, 商業, 公的施設に着目して—」

都市機能の集積動向という難しい内容の論文でしたが、地元の市街地を対象に研究を行って良かったです。

pick up!

「戸建住宅の設計初期段階における 仕様検討用 LCA ツールの拡張性を考慮した実装に関する研究」

佐々木 翼

我が国におけるエネルギー消費量は増加している。それにより、温室効果ガス削減目標の設置、住宅・建築物のストック平均でゼロエミッションとする目標が設置された。以上のことより、省エネ住宅・ゼロエミッション住宅・健康維持増進住宅・長寿命住宅を満たす住宅を普及させることが重要である。それらを普及させるために、既往研究で、住宅ライフサイクルデザイン戦略支援システム (HLDSAS) が提案されている。

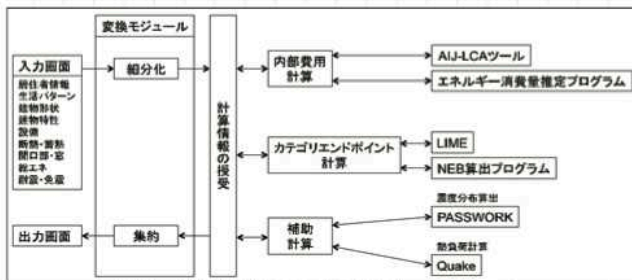
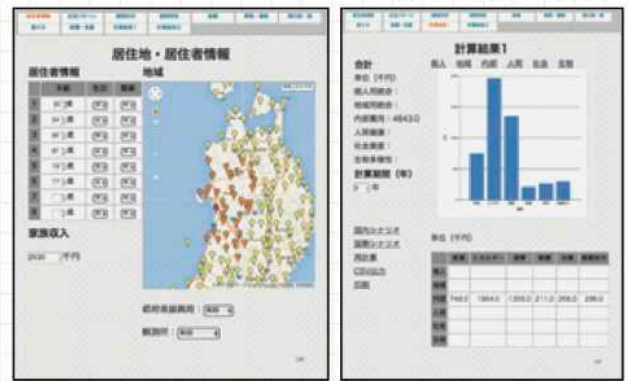


図1 中間的段階のプログラム構成

本研究は、戸建住宅の設計初期段階を対象に、HLDSAS 理念を具現化することを最終的な目的としている。その中で、①ツールの開発フェーズに関する検討、②中間的段階のプログラム構成の検討、③初期段階プログラムの試作、④画面構成の検討、以上の4点を主な目標とした。

開発フェーズに関する検討では、最終段階で求める機能を実現するために踏むべき段階を設定し、各段階における考え方を示したことにより、必要な機能を整理する



ア) 入力画面例 イ) 出力画面例

ことができた。中間的段階のプログラム構成の検討では、中間的段階でのプログラム構成の概要を検討し、今後、プログラムを実現する上での枠組みを作成することができた。初期段階プログラムの試作では、本研究で実際に作成した初期段階におけるプログラムを試作することで、今後、行っていく各段階でのプログラム作成に繋げることができた。画面構成の検討では、クライアントにとって、各項目を入力しやすく、また、必要な情報を得られる画面を作成できたといえる。

今後の課題として、本研究で作成した段階をもとに、最終段階プログラムの実現をする。また、モニター調査を行うことで、プログラム、画面デザインの改良を行っていく。

2014年度の卒業論文賞を受賞しました。

pick up!

「角館伝統的建造物群保存地区の現代的問題・課題に関する研究 —他の武家町11地区との比較をして—」

畠山 大輝

1990年代以降、地方経済の悪化と少子高齢化、若年層の流出により地方都市の衰退が進行している。また、2013年には全国の空き家率が過去最高の13.5%となった。地方都市の衰退を抑制するための魅力の強化が重要となっている。本研究では、重要伝統的建造物群保存地区（以下、「重伝建地区」）の選定種別の特性を反映させた現代的問題・課題に注目し、秋田県角館重伝建地区（以下、「角館地区」）の現代的問題・課題を、重伝建地区のうち武家町12地区の比較を通して明らかにする。

表1 武家町重伝建12地区の概要（選定年降順）

地区名称	都道府県	市町村	種別	選定年	伝建地区面積(ha)	用途地域指定			
						一低	二低	一住	近高 区域外
角館	秋田県	仙北市	武家町	1976	6.9	●		●	
堀内地区	山口県	萩市	武家町	1976	55.0	●			
平安古地区	山口県	萩市	武家町	1976	4.0	●			
鉄肥	宮崎県	日南市	武家町	1977	19.8	●	●	●	●
仲町	青森県	弘前市	武家町	1978	10.6	●			
知寛	鹿児島県	南九州市	武家町	1981	18.6				●
出水籠	鹿児島県	出水市	武家町	1995	43.8	●		●	●
城内諏訪小路	岩手県	金ヶ崎町	武家町	2001	34.8	●		●	●
入来籠	鹿児島県	薩摩川内市	武家町	2003	19.2				●
神代小路	長崎県	雲仙市	武家町	2005	9.8				●
土居廓中	高知県	安芸市	武家町	2012	9.2				●
津和野	島根県	津和野町	武家町	2013	11.1				●

新聞記事検索結果の分析及び保存審議会議事録の分析より、角館地区で発生している主要な問題を整理すると、①地区住民の高齢化、②空き家の増加、③店舗の増加の3つが挙げられる。次に、武家町12地区を比較するために、条例などの比較と保存計画の比較を行った。また、行政アンケート調査（回収率 83.3%）を行った結果、重伝建選定当時から地区内の人口が減少したと回答した地区は10地区中9地区で、大半の地区において人口減少が進行していた。



表2 保存計画の内容比較

重伝建地区名称	保存計画整備年度	○：項目有り -：記載なし											合計(計画数)									
		伝統的建造物群保存地区の保存整備	伝統的建造物以外の建造物の保存整備	理建物件の保存整備	屋外広告物の規制・禁止	その他の保存整備	保存整備の基準	経費の補助	物資の提供・献取	税の優遇措置	技術的支援	住民組織への助成・顕彰・普及啓蒙		管理施設・設備・環境の整備計画	防犯施設等の整備	環境整備計画	その他整備計画	伝統的建造物の公開	空き家対策	周辺地区との連携	住居との連携	
文化庁作成例	-	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	
鉄肥(日南市)S52	告-1977(S52)改-不明	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	
堀内諏訪小路(金ヶ崎町)H13	告-2000(H12)改-不明	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
入来籠(H15)(薩摩川内市)	告-2003(H15)改-不明	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	○	
神代小路(雲仙市)H17	告-2005(H17)改-不明	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
知寛(S56)(南九州市)	告-1981(S56)改-2007(H19)	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
出水籠(出水市)H07	告-1995(H07)改-2010(H20)	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
堀内地区(萩市)S51	告-1976(S51)改-2008(H20)	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
平安古地区(萩市)S51	告-1976(S51)改-2008(H20)	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
仲町(弘前市)S53	告-1978(S53)改-2009(H21)	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
知寛(仙北市)S51	告-1978(S53)改-2009(H21)	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
土居廓中(安芸市)H24	告-2012(H24)改-不明	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
津和野(H25)(津和野町)	告-2013(H25)改-不明	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	
合計(地区数)		12	12	11		2	12	12	12	10	3	7	5	4	12	12	11	3	6	3	5	8

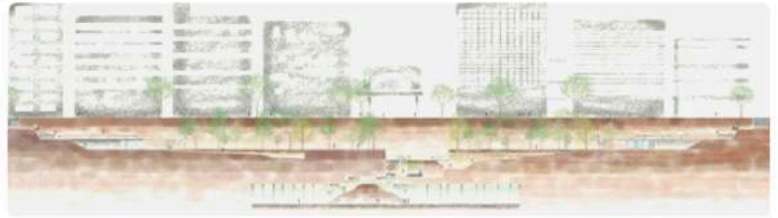
各比較を通して、角館地区では①地区内人口の減少、②地区住民の高齢化、③空き家の増加、④店舗の増加の4つの問題が発生していた。とりわけ④は角館地区に顕著な現代的問題である。伝建制度創設の第1回目に選定された角館地区は、観光地として注目され、観光客が増加していることから、観光産業は成功している。しかし、店舗が増加し、武家町の雰囲気から乖離してしまった。また、保存計画の基準に「専用住宅」と定めているにも関わらず店舗が増加している実態がある。保存計画が第三者には法令的拘束力を持たないことが起因している。以上のことから、角館地区では武家町重伝建地区に共通する現代的問題、定住を促す制度、次世代の保存意識の啓発、空き家の利活用像の検討があり、とりわけ角館地区では「出店コントロールの合意形成」を行うことが現代課題として加わっていることが明らかになった。今後は、角館地区の住民及び保存団体への意識・意向調査を行い、研究を深化されることが研究上の課題である。

表3 角館地区・武家町重伝建地区の現代的問題・課題

	第3章 角館地区	第4章 武家町12地区
現代的問題	<ul style="list-style-type: none"> 地区内人口の減少 地区住民の高齢化 空き家の増加 店舗の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 地区内人口の減少(9/10) 地区住民の高齢化(10/10) 空き家の増加(10/10) 店舗の増加(2/10)[角館、堀内諏訪小路のみ]
現代課題	<ul style="list-style-type: none"> 定住を促す制度の検討 次世代の保存意識の啓発 空き家の利活用像の検討 出店コントロールの合意形成 	<ul style="list-style-type: none"> 定住を促す制度の検討 次世代の保存意識の啓発 空き家の利活用像の検討

卒業設計紹介

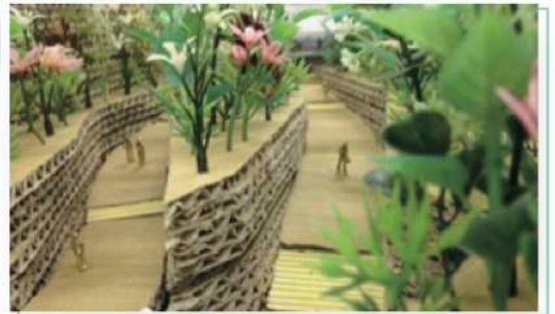
今年の都市アメは卒業設計がないため、
苅谷ゼミ・手嶋君の卒業設計を紹介します。



建築は断片的にしか空間を形成できない。どうしたら断片的な空間をつなげる事が出来るのか。そこで、「人間と植物」をテーマにし、仙台市地下鉄青葉通り一番町駅の工事に着目した。



「君にとって私って」
手嶋 恵佑



仙台市中心部の近くに青葉山や広瀬川といった従来の自然を残すのみならず、自然と植物の胎動を加え、新たに名所図絵に描かれる都市の風景を生み出し、穿たれた地形との間に見え隠れする、美しい空間造形を多くの市民に提供することを構想しました。

学生自主研究

コンパクトシティ形成における公共交通施策

小島寛之 紙屋柁邑 鴨下記久 須田一陽 佐藤基
(2014年度2年生)

自家用車中心の都市のあり方ではなく公共交通を中心とし、徒歩圏内での生活が可能となるコンパクトシティの取り組みが必要と考え、この研究を行った。

LRT 導入といった先進的な取り組みを行った富山市を中心に、名古屋市、仙台市、新潟市、鶴岡市の5都市を調査・比較した。とりわけ、富山市は現地調査、GIS分析を行った、

国勢調査、都市計画図、マスタープランや専門書籍から基礎データ収集・分析を行うと同時に、月に1回程度、指導教員・上級生と議論を交わし、研究を進めた。

5市の研究結果から、コンパクトシティの取り組みにとって、各々の都市に応じた公共交通施策が有効なツールとして用いることができることが理解できた。



指導教員から

今回の自主研は大所帯だったが、それぞれが役割分担を果たしつつ、最後にそれら成果をまとめて議論することができて良かった。チーム研究となった。報告書は105頁と大作となり、メンバーの2人は3年次のアドバンス研究に進むこととなった。

都市計画学会

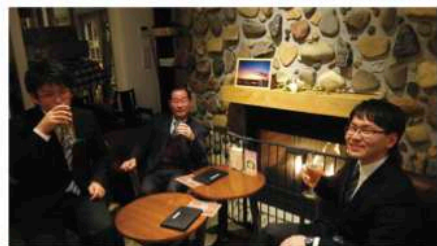
今年も発表してきました

卒業間際の3月7日(土)、畠山くん・和賀くんが都市計画学会東北支部の研究発表会で発表を行いました。



八柳くんは、残念ながら都合により欠席。山口が代理発表でしたが、3題とも活発な議論をして頂きました。

発表会後は恒例の懇親会となり、県大・経営学科の稲川先生や他大学の先生・学生さんらと楽しく過ごしました。なお、会場は岩手県紫波中央駅前の「オガール・紫波」です。「都市と農村の新しい結びつきを創造する」という面白い開発コンセプトを持つプロジェクトですので、一度チェックしてみてください。http://www.ogal-shiwa.com/



学科ニュース!

山田寛次学科長 退官

★ 退官の挨拶

UAELの卒業生、修了生の皆さん、それぞれ元気で活躍のことと思います。

1999年の建学の時から16年間秋田県立大学で勤務してきましたが、今年度末で停年退官します。思えば18歳で学生になってから、50年近くを、建築一筋、世に貢献しようとやってきました。その間、企業で設計、本学で教育、研究と、三領域で活動することができました。今、振り返ると、見えないルールが備えられていた気がします。しかしそのルールは決して運命で与えられた物でなく、自分自身のベクトルが方向を定め、また私を導き、支えてくれた周りの人たちの思いの結晶として伸びていったのだと気付かされます。3月6日は感謝を込めた

最終講義でした。

皆さんも様々な変化に翻弄されるかもしれませんが、周りの人を大事にして、ベクトルを保持すれば必ず道は開けると思います。

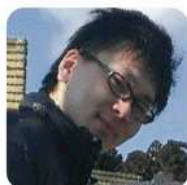


建築環境システム学科
建築材料学講座
山田寛次

★ 板垣 直行先生が教授に昇任しました。詳しくは次号でご紹介します。

★ 石山 智先生と旧姓渡辺 真季先生がご結婚されました。おめでとうございます。

卒業生からの メッセージ



畠山大輝 [東北ミサワホーム株式会社]

都市アメでは、研究等の学術的な知識は勿論ですが、社会の基本マナー、一般常識等、学べたことは本当に多かったです。新4年生となる皆さんは、就職活動、研究と大変だとは思いますが、頑張ってください!



佐々木翼 [株式会社竹中工務店]

悔いの残らない大学生活を送ることができた、と心からは言えませんが、心に残る良い大学生活を送ることができたと思います。これまで支えて下さった、多くの方々に心から感謝しています。ありがとうございました。



守屋子貢 [横浜国立大学大学院]

都市アメでの生活では、先生をはじめとして、先輩方、後輩、同研究室の4年生の仲間など、周りの方々に支えられた2年間でした。そのご恩を返していけるように、今後の研究活動を頑張っていきます。



八柳翔太 [東日本旅客鉄道(株) 秋田支社]

都市アメの仲間、先生方、たくさんの人に支えられて大学生活を終えることができました。本当にありがとうございました。研究はもちろん、いろいろなことに挑戦してたくさん刺激を受けてください。お互い頑張りましょう。



和賀剛志 [株式会社オオバ]

専門的な分野に近づくにつれ頭の中が混乱していくと思います。そんなとき一人で抱え込まないで周りの方に吐き出してみてください。言葉にすることで頭の中が整理され次のステップに進めます。仲間を頼って頑張ってください!

新4年生の研究テーマ

現時点でのそれぞれの研究テーマとそれに対して意気込みをひとこと!

天野玲奈 「(仮) 全庁統合型時空間地理情報システムの導入による費用対効果の調査」

先輩の研究を継続していくものであるため、模範としながら研究を進めていきたいと思っています。

荒生竜也 「(仮) 東北6県におけるまちづくりNPOの現況・経年変化から有益性に関する考察」

山口先生の指導の下、セミナー1・建築学研修を通してステップアップし研究論文へと至れるよう励んでいく次第です。

栗野菜 「(仮) 歴史と風土を活かすまちづくりにおける継承型住宅の形成経緯と運用形態の研究」

地域に根ざした個性豊かなまちづくりが普及することを願って研究に励んでいきたいと思っています。

池隆裕 「(仮) 戸建住宅の設計初期段階における仕様検討用LCAツールに関する研究」

先輩から引き継いだ研究であるため、着実なステップを踏みつつより発展した論文が書けるように頑張ります。

菅谷美聖 「(仮) 街環事業着手後重伝建地区へ選定された都市の整備事業とそれによる影響の調査」

着実に取り組みつつ、限られた時間の中で成果を出せるよう頑張りたいと思っています。

写真コンテスト選外作品

ニューズレターの表紙の写真は毎回、都市アメ研究室内で行われる写真コンテストによって選出されています。先生方を含めた都市アメメンバー全員から選りすぐりの写真が寄せられる中、あえなく選外となってしまった写真のうちの3つをご紹介します。



愛知県春日井市のふれあい緑道から。四季折々の風景を楽しめます。(栗野)



野中保育園（静岡県富士宮市）の裏山から、野中ザウルス園舎（仙田満先生設計）と富士山を望む。プール右手はプレイパークで泥んこ遊びもできる。(浅野)



野中ザウルス園舎内のホールにて撮影。塩川理事長曰く、仙田先生設計の園舎の中で、その遊環構造を長く活用し続けている例は珍しいとのこと。(浅野)

表紙写真「蔵の街とちぎ」栃木県栃木市巴波川の沿道から栃木市の街中を流れる巴波川には4月から5月の間何百匹もの鯉のぼりが掲揚され、遊覧船の船頭には栃木の歴史や唄を聴かせていただけます。写真の幸来橋～巴波橋付近はTVドラマやCMのロケ地としても利用されるなど、江戸時代を思わせる蔵造りの建物が並んでいます。(菅谷)



ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!
<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>
 (検索サイトから“都市アメニティ工学研究室”で検索)
 NLのバックナンバーをHPからダウンロードできます



編集後記

つい先日桜が咲いていたと思っていたら、秋田は立夏を待たず真夏日を迎えました。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。この度もNL14号の発行にあたり、みなさまにご協力いただきありがとうございます。これからも都市アメニティ研究室の活動を発信して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

<2015.5.1 NL編集部> 菅谷美聖 荒生竜也 山口邦雄

what's happening?

OB・OGの今

都市アメニティ研究室のOB・OGの方々に近況報告や後輩への一言を頂いています。今回は8期生のちょっと変わった先輩から…

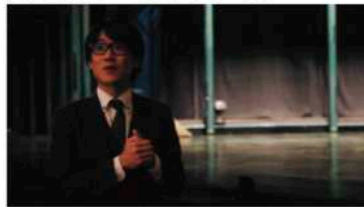
都市アメの皆さん、そしていつも都市アメ研の活動を応援してくださっている皆様こんにちは。8期生の中島祥崇です。NL寄稿の機会をいただき、大変光栄に思います。

さて、私は一度建築業界へ就職したものの、転職をし、現在は秋田県仙北市の「わらび座」にて営業職を務めています。(わらび座については割愛しますが、調べてみてください)文化芸術の分野です。不勉強な学生時代でしたが、どこか「まちづくり」に興味関心を寄せていました。そんな私が今仕事を通じて志し、取り組んでいる本質は「地域(社会)課題をいかに解決するか」ということです。この業界のおもしろいところは垣根がないところ。産学官金公民、ありとあらゆる業種と関わりを持ちます。様々な業種の現状と課題を把握することで、今私たちが取り組まなければいけないことの方向性が朧げながら見えてきたりします。そんな視点でみる都市アメ研の活動、研究、そして皆さんが学生だからこそ取り組めることの可能性は、改めておもしろいなあと思うのです。また研究室に戻って一緒に研究に取り組みたいくらいに。



まちづくりに関わり、市民活動などを通じて、また仕事でたくさんの人と関わる中で、私は自分自身で成長を実感できるほど変わりました。決して長い時間はかかりませんでした。そして思います、人は人との出会いによってこそ、成長するのではないかと。幸いに、現在の秋田県には無料で参加できるイベントが様々ありますし、ちょっとアンテナを広げてみてください。刺激的な仲間がたくさん待っています。OGOBの皆さんも、秋田にお越しの際はぜひ研究室に足を運び、学生との交流を楽しんでいただければ、よりよい研究室に磨き上げられていくと思います。私もまたお邪魔しにいけますね。

夢を持ち続けたいと思います。これからは私たちの時代です。自分たちで新しい未来を切り拓けるタイミングです。楽しんでいきましょう。



秋田県立大学
 システム科学技術学部
 建築環境システム学科
 8期生 中島 祥崇

ニューズレターは、卒研究生はもとより研究調査・活動でお世話になった住民や役所の方々、他大学の都市系研究者の方々等、毎回約120部を送付して情報発信しています。

OB・OGの皆さんへ！
 都市アメからのお願ひです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで。



UAEL 編集部
 〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口
 秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
 電話：0184-27-2053 mail：yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp
 担当 山口 邦雄